

No.90メンバーミーティング

プラスチックマテリアルリサイクル「動静脈連携」

• 【趣旨】

- サーキュラーエコノミーの実現に向け、プラスチックのマテリアルリサイクルは極めて重要な役割を担っています。しかし、高品質な再生材の安定供給と継続的な利用を社会実装するには、製造業（動脈）とリサイクル業（静脈）の分断を解消する「動静脈連携」が不可欠です。本セッションでは、製品ライフサイクルや要求スペックが大きく異なる3つの主要分野（消費財・自動車・小型家電）のトップランナーをお招きします。それぞれの業界における動静脈連携の最新事例を比較することで、品質保証、コストバランス、回収スキームといった共通の壁をどう乗り越えるか、マテリアルリサイクルを自立したビジネスとして成立させるためのヒントを探ります。

• 【日時】 2026年6月19日（金） 14：00－17：15

- 14:00-14:05 挨拶 原田幸明 CEMVC研究会 代表
- 14:05-14:35 挨拶 宮川英樹 プラスチックマテリアルリサイクルWG担当
- 14:40-15:20 講演 1 「消費財における動静脈連携の事例（仮題）」 LION株式会社
- 15:25-16:05 講演 2 「自動車における動静脈連携の事例」 山本 寿樹 KISCO株式会社
- 16:10-1 意見交換
- 17:30-19:30 和飲交流会（別場所）

No.3 CE × Dialogue – サークュラーエコノミーの「なぜ？」を掘り下げる知の往還 – 「炭素循環」

• 【趣旨】

- 有限な地球資源、環境負荷の高まり、そして循環がもたらす新たな経済価値——私たちは何を目指し、何を問い直すべきでしょうか。サーキュラーエコノミーの前提として“リサイクル”が当然視されるいま、その根本的意義を資源・地球環境・人類経済の三つの視座から鋭く問います。
- 第3回となる今回は資源としての「炭素」にスポットをあてます。人類が経済活動を始める遥か以前より地球上の生命は、炭素を自らの身体を構成するための資源として活用してきました。生命が誕生してから40億年もの間、持続可能な資源活用が続いて来たのは、この炭素という元素の特性を生かした精緻な循環のシステムが構築されていることによるところが大きいでしょう。
- 20世紀に入り、人類は枯渇性の地下化石資源の利用を開始し、そこから得られる物質・エネルギーの豊かさを享受してきましたが、結果として気候変動（地球温暖化）や廃棄物汚染（海洋プラスチック）などの問題を引き起こしています。しかしこれらの問題は炭素そのものが持つ問題ではなく、循環しない炭素の活用法を人類があまりに拡大しすぎたことに起因していると言えるでしょう。
- 本回では、クリティカル・スピーカーとして藤井宏行氏と中谷隼氏に問題提起をいただき、炭素資源を活用する幅広い産業の方の視点を集めて、持続可能な炭素循環のあり方について多角的に議論します。例えば、化学産業におけるバイオマス資源の利用の課題やエネルギー産業におけるCO2資源化（メタネーション等）の問題を炭素循環という大きな枠組みで捉えなおすことで、個別の課題に対する各産業の対症療法の域を超えた産業横断的な解決策の方向性が見いだせればと考えています。
- また、コメンテータとしてご参加いただける方を広く募集します。紙やプラスチックなどの炭素資源を実際にリサイクル事業に従事される方、研究機関でバイオマスやCCUを追究されている方、さらには政策立案や企業マネジメントの立場からの提言をお待ちしています。率直な経験談と多様な視点を持ち寄ることで、循環経済における炭素循環活用の未来を洞察し、持続可能性の真の地平を探究したいと考えています。
- 2026年6月30日（火）14：00－17：30 ・現地会議室：新宿アントレサロンビル3Fセミナールーム
- 14:00-15:00 クリティカル・スピーカー 藤井宏行 個人（日本化学工業会） 中谷隼 東京大学
- 15:00-15:10 ティータイム休憩
- 15:10-17:15 深堀ディスカッション ライトニングトーク（5分／名）
- 17:30-19:30 和飲交流会「うおやー丁」

No.6ビジネスモデル検討会

- 【日時】 2026年7月13日（月）会議 14：00－17：00 和飲交流会
17：00－19：00
- 【場所】 ○会議室：「新宿100人貸し会議室フォレスト」
- 〒160-0022東京都新宿区新宿1-2-9東京メトロ丸ノ内線新宿御苑前駅徒歩1分
- 【概要】
- 廣瀬弥生様と喜多川和典様を幹事としましてNo.6ビジネスモデル検討会を現地のみで開催いたします。お話しだけではなく、皆様にもご参加頂く「ワークショップスタイル」での議論をする予定です。当日いづくつかに分かれてグループ活動を行います。模造紙、ポストイット、鉛筆を使います。
- 【アジェンダ】
- 14:00-14:05 挨拶 原田幸明 CEMVC研究会 代表理事
- 14:05-14:25 ビジネスモデル検討会の進め方
- 廣瀬弥生 東洋大学
- 喜多川和典（公）日本生産性本部コンサルティング部
- 14:25-16:45 グループ活動（グループ分け・活動・発表）
- 16:45-17:00 廣瀬、喜多川 まとめ
- 17:00-19:00 和飲交流会（同じ場所）

No.92メンバーミーティング

【題目】 わが社のCE

- サーキュラーエコノミー（CE）に関しましては、かなり国内各社で活動が進み始めています。当研究会では何度か、「わが社のCE」と題して、話題提供を頂いてきましたが、今回も、－CEを推進するための課題－を中心として、一般共通項目に置き換えて、活発な討論会を行いたいと思います。
- 【日時】 2026年7月21日（火） 14：00－17：00 <ハイブリッド方式：現地会議＋Zoom> + 和飲交流会
- 【場所】
 - ・ 現地会議室：新宿アントレサロンビル3F
- 【アジェンダ】
 - 14:00-14:05 挨拶 原田幸明 CEMVC研究会 代表
 - 14:05-14:25 わが社のCE 牧内晴久 ALCA合同会社
 - 14:25-14:40 質疑応答
 - 14:40-15:00 わが社のCE 堀正典 株式会社KRI
 - 15:00-15:15 質疑応答
 - 15:15-16:45 意見交換
 - 16:45-17:15 Zoomを終了し現地会議室だけでフリートーク
 - 17:30-19:30 和飲交流会（別場所）

note



材料・資源・LC入を専門

<https://note.com/halada/>



HAL



- [CE論点] 「量を追わない経済」は、すでに日本で始まっている <https://note.com/halada/n/ne81c6470d2f3>
- 日本はなぜ資源国になれたのかー品質国家の成功と、その先の信頼駆動型産業ー <https://note.com/halada/n/nce2e45485abd>
- [CE論点]資源有効利用促進法改正の本当の意味 <https://note.com/halada/n/n27922672121d>
- [CE論点]サーキュラーエコノミーの誤解をほどくー産業が強くなる循環のつくり方 <https://note.com/halada/n/n958f5b86a63d>
- [CE論点]サーキュラー経済における新しいリサイクルその1 「リサイクルの常識はどこで間違ったのかー量の正義と3R神話の終わり」 <https://note.com/halada/n/n97008d9be37d>

CE視点・論点

CE視点・論点

<https://circular-industries.net/>

- これからの日本を考えるための、いくつかの事実 --- 始まっている「量を追わない経済」への日本からの静かな転換
- 信頼駆動型ビジネス—壊れないことを売る経済がつくる社会の方向性
- KPIからSPIへ
- 信頼駆動型ビジネスの基盤としての「工程知」
- 構造化価値配分市場への移行と「資源観の転換」

note



材料・資源・LC入を専門



HAL

<https://note.com/halada/>

- [CE論点] 「量を追わない経済」は、すでに日本で始まっている <https://note.com/halada/n/ne81c6470d2f3>
- 日本はなぜ資源国になれたのかー 品質国家の成功と、その先の信頼駆動型産業ー <https://note.com/halada/n/nce2e45485abd>
- ゲームに学ぶこれからの企業指標ー HP・MP・EXP・RESで企業を見るー <https://note.com/halada/n/n4a3a73eac770>
- 資源は“掘るもの”から“回すもの”へーイラン戦争で見た本当の変化 <https://note.com/halada/n/nff6a07ecdea3>
- 2026年中国輸出規制が見ぬいた日本産業の強さのツボー “信頼ノード国家”への転換を政策として示すときー <https://note.com/halada/n/n9eeb1fb30887>

現場を担う企業のための

SCAT123plus

CO₂が見える。選ばれる会社になる。

—実務からCO₂を見る化するシンプル手法—



現場を担う企業のためのSCAT123plus: CO₂が見える。選ばれる会社になる。

原田 幸明 (著) | 形式: ペーパーバック

新発売

環境対応をしているのに、なぜ評価されないのか。

その理由は、「やっていること」が「見える形」になっていないからです。

本書は、CO₂排出量・Scope1/2/3・リサイクル貢献を、現場の経理データから可視化する実践ツール「SCAT123plus」の考え方と使い方を、専門知識なしでも理解できるよう解説した実務書です。

- 環境情報開示への対応
- Scope3算定の基礎
- サプライチェーン要求への対応
- リサイクル・環境貢献の見える化
- Excelベースで始めるLCA
- 中小企業でもできる脱炭素対応

などを、現場目線でわかりやすく解説。

「環境はコストではなく、選ばれるための条件である」

その時代に向けた、“現場から始める脱炭素経営”の入門書です。



ペーパーバック
¥1,800 税抜
¥1,980 税込 (20pt)

prime

その他の新品 ¥1,980から

新品: ¥1,800 (1,980 税込)

詳細はこちら



■日にお届け

ティ技術設計機構 - 305-

現場を担う SCAT123



ÜME GOLD

都市鉱山から、未来の文化へ

折りと技が、未来をつなぐ。

都市に眠る資源
都市鉱山
金の循環
未来の文化へ

裏面

この金は、すでに私たちの暮らしの中にある。

Urban Mine = Modern Mine

身のまわりの小型家電には、金が含まれています。都市鉱山は、私たちの暮らしの中にある大切な資源です。

スマートフォン 最大 約480mg	ノートPC 約140mg	デジタルカメラ 約110mg	ゲーム機 約55mg
タブレット 約19mg	携帯音楽プレーヤー 約17mg	プリンター 約37mg	DVDプレーヤー 約16mg
ICカード 約7.9mg	電卓 約2.2mg	ヘッドセット 約1.9mg	電子辞書 約1.5mg
電子辞書 約1.5mg	電子辞書 約1.4mg	電子辞書 約1.2mg	電子辞書 約0.1mg

その他 0mg

都市鉱山から金になるまで

回収 (Collection) → 選別 (Sort) → 精錬 (Refine) → ÜME GOLD

11月9日
都市鉱山メタルの日(仮)
未来のために、今、つながりませんか。

協力募集
ご家庭や企業で眠る小型家電の回収にご協力ください。あなたの小さな貢献が、未来の文化をつぎます。



11/9は
都市鉱山メタルの日

資源可視化研究室

No.90メンバーミーティング

プラスチックマテリアルリサイクル「動静脈連携」

• 【趣旨】

- サークュラーエコノミーの実現に向け、プラスチックのマテリアルリサイクルは極めて重要な役割を担っています。しかし、高品質な再生材の安定供給と継続的な利用を社会実装するには、製造業（動脈）とリサイクル業（静脈）の分断を解消する「動静脈連携」が不可欠です。本セッションでは、製品ライフサイクルや要求スペックが大きく異なる3つの主要分野（消費財・自動車・小型家電）のトップランナーをお招きします。それぞれの業界における動静脈連携の最新事例を比較することで、品質保証、コストバランス、回収スキームといった共通の壁をどう乗り越えるか、マテリアルリサイクルを自立したビジネスとして成立させるためのヒントを探ります。

• 【日時】 2026年6月19日（金） 14：00－17：15

- 14:00-14:05 挨拶 原田幸明 CEMVC研究会 代表
- 14:05-14:35 挨拶 宮川英樹 プラスチックマテリアルリサイクルWG担当
- 14:40-15:20 講演 1 「消費財における動静脈連携の事例（仮題）」 LION株式会社
- 15:25-16:05 講演 2 「自動車における動静脈連携の事例」 山本 寿樹 KISCO株式会社
- 16:10-1 意見交換
- 17:30-19:30 和飲交流会（別場所）

日本のプラスチック・マテリアルリサイクル政策の現在の流れ

回収から再生材市場形成へ ～「使う」「品質を保证する」段階へ移行～

- 1  これまでの中心は「回収量の拡大」と「リサイクル率向上」
自治体回収や分別収集の拡大により、回収・リサイクルの基盤を整備
- 2  プラスチック資源循環法により制度整備が進展
自治体・事業者の回収・再資源化の仕組みが整備
- 3  回収しても再生材の需要不足が課題として顕在化
再生材の利用先が限られ、市場が十分に拡大せず
- 4  政策の重点は「回収」から「再生材利用」へ移行
再生材を実際に使うことを政策の中心に
- 5  自動車・家電・容器包装を中心に再生材利用を拡大
大きな需要が見込める分野を対象に利用拡大を推進
- 6  再生材利用率の報告・開示制度を導入
事業者利用計画の提出と定期報告を求め、見える化を促進
- 7  高度選別・洗浄・再ペレット化等の設備支援を強化
高品質な再生材を安定的に供給するための設備投資を支援
- 8  品質保証・トレーサビリティ整備が新たな課題
再生材の品質基準、原料の由来管理、情報流通の仕組みを整備
- 9  単なる再生率ではなく、用途に応じた品質確保へ
自動車等で求められる性能を満たす再生材の供給を重視
- 10  「回収社会」から「再生材市場形成」への転換期
再生材が経済的に成立する市場をつくるフェーズへ

プラスチック循環の価値創造サイクル



現在は過渡期 (第3段階から第4段階へ)

- ・再生材利用の拡大と並行して、再生プラ原料の品質規格化が次の焦点
- ・用途に応じた品質基準、JIS/ISO化、認証制度の検討が進行中
- ・「再生材を使う」から「品質が保証された再生材を安心して使える」社会へ

回収量が市場をつくるのではない。品質が市場をつくる。

これまでの発想

廃棄物管理の発想
回収量を増やすことが目的



これからの発想

資源管理の発想
質の高い資源を回すことが目的



需要拡大の鍵は、再生原料の規格化である。

✓ 品質がそろう ▶ 安心して使える ▶ 用途が広がる ▶ 需要が拡大する